

## 黒毛和種繁殖牛でみられたイバラキ病様疾病の発生

淡路基幹家畜診療所

○西崎 悟 久野尚之 大平正信 宮本孝明 宇崎敬与  
小西健治 石川貴將 曾賀久征

黒毛和種繁殖牛で嚥下障害を示すイバラキ病様疾病が発生し死亡した。同時期に食欲不振, 嚥下障害を呈する疾病が多発したのでその状況を調査した。

### 材料および方法

症例牛は 2015 年 10 月 18 日から 11 月 4 日の間に嚥下障害, 食欲不振にて診療依頼があり家畜保健衛生所にて病性鑑定を行った 10 頭とした。症例 1 は 2005 年 12 月 7 日生まれの黒毛和種繁殖牛で 2015 年 10 月 19 日に「よだれを多量に出す」という稟告で往診, 体温 39.2℃, 飲水するも鼻腔より逆流, 嚥下障害を示し, 10 月 21 日死亡した。症例 2 は 2002 年 5 月 3 日生まれで 10 月 20 日に食欲不振にて求診。体温 39.7℃, 頭部を下げると鼻腔および口腔より流涎多量に噴出, その後加療するも嘔吐し嚥下困難続くため病理解剖を実施した。症例 3~10 の 8 頭のうち 1 頭が死亡し 7 頭は治癒した。8 頭の中では嚥下障害 (2 頭), 流涎 (1 頭), PingTest 陽性 (1 頭), 跛行 (1 頭) および顔面浮腫 (1 頭) がみられた。症例 1~10 について遺伝子検査を実施した。

### イバラキ病様疾病の発生状況

2015 年 10 月 1 日から 12 月 31 日の間, 食欲不振にて診療した黒毛和種繁殖牛の病傷カルテより臨床症状からイバラキ病様疾病の発生状況を調査した。

### 結果

10 頭の遺伝子検査の結果, 全頭でシカ流行性出血病ウイルス群 (EHDV) 遺伝子 (PCR) 陽性, EHDV 血清型 2 遺伝子 (PCR) 陰性, 血清型 6 遺伝子 (PCR) 陽性であった。

2015 年 10 月 1 日から 12 月 31 日の間, 食欲不振にて診療依頼のあったものは 78 頭 (症例牛を除く) で, うち 38 頭 (35 戸) で嚥下障害 (延べ 9 頭), 流涎 (延べ 17 頭), PingTest 陽性 (延べ 10 頭), 跛行 (延べ 7 頭) および顔面浮腫 (延べ 2 頭) などのイバラキ病様の症状を示し, 8 頭が死亡した。発生は 10 月初旬よりみられ 11 月初旬~中旬がピークで 12 月中旬までであった。発症年齢は 12 歳が多く 12~14 歳で 4 頭死亡した。死亡した 8 頭のうち嚥下障害または流涎が 6 頭でみられた。嚥下障害がみられた牛のうち 7 頭に NSAID 製剤を使用したところ 5 頭が治癒した。

### 考察

症例 1~10 において臨床症状はイバラキ病に酷似していたが遺伝子検査の結果, EHDV 血清型 2 遺伝子 (PCR) 陰性, 血清型 6 遺伝子 (PCR) 陽性であり, イバラキ病は否定された。臨床症状より管内で EHDV 血清型 6 の感染によるイバラキ病様疾病の流行が示唆され, 死廃事故も多く発生した。嚥下障害を示した重症例で咽喉頭部の消炎効果を期待して NSAID 製剤を使用したところ, 早期投与により治療効果がみられ, 治療の選択肢の一つになると考えられた。